BL-15A2/2018G123

PFアクティビティレポート：ユーザーレポートについて

PF Activity Report: Users’ Report

筑波太郎1,\*, 桜咲2

1高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光

〒305-0801つくば市大穂1-1

2○○大学, 〒123-4567　東京都××市1-1-1

Taro TSUKUBA1,\* and Saki SAKURA2

1 Photon Factory, Institute of Materials Structure Science,

High Energy Accelerator Research Organization,

1-1 Oho, Tsukuba, 305-0801, Japan

2University of ○○, 1-1-1 ××, Tokyo, 123-4567, Japan

　アブストラクトはオプションとします。レポートが長い場合等、必要に応じてこの部分に御記入ください。必要のない場合は消去して下さい。

1 はじめに

物質構造科学研究所・放射光（Photon Factory）では，施設の活動報告集として毎年Photon Factory Activity Report（PFACR）を発行して，PFの活動を広く国内外に紹介しています。

PFACRはユーザーの皆様からのUsers' Reportsをまとめたものですが，2014年6月の規則改定により，現在では終了届を兼ねるものとなっています。そのため，実験課題の有効期間中あるいはその後に，原則として一課題あたり少なくとも一報のユーザーレポートの提出が必要となっています。過去の PFACR にすでにレポートを提出している方は今回新たにレポートを提出していただく必要はありませんが，もし実験課題に関して新たな研究成果等がありましたら，再度の投稿をご検討いただけますと幸いです。

現在は，2018年度（2018年4月-2019年3月）のレポートを受け付けています。データの解析や解釈等に時間を要する場合もありますので，必ずしも2018年度の実験に限定せず，それ以前の実験結果の報告も受け付けています。

また、昨年度に引き続き日本語でのユーザーレポートも受け付けます。ユーザーレポートの原稿や電子ファイルの準備・投稿要領は、下記に掲載しておりますのでご覧下さい。<http://www2.kek.jp/imss/pf/science/publ/acr_submission_jp.html>

ユーザーレポートは年間を通して，ほぼいつでも投稿可能です。投稿の準備が整い次第，速やかご投稿下さい。なお，年度毎にまとめるために毎年一回の締め切りを設定しています。

原稿提出の締め切り:

**2019年6月28日(金)** (JST)

締め切り後に投稿されたレポートは自動的に次の号に掲載されることになります。

原稿を提出して戴くサイトにアクセスするときuser IDとパスワードが必要となります。それぞれ"acr2018"、"pf"と打ち込んでください。

表 1: ユーザー名とパスワード

|  |  |
| --- | --- |
| UID | acr2018 |
| PW | pf |

### 2 実験

Photon Factory Activity Reportには毎年出版物リストをつけています。これはPFで行われた研究を基に執筆された論文リストで、これまたPFの活動のバロメータでもあります。まだ登録されていない論文をお持ちの場合は、下記のサイトから登録をして下さい。以前に出版されたものでも結構ですので、ぜひ登録をお願いします。<http://www2.kek.jp/imss/pf/science/pubdb/>

### 3 結果および考察

PFアクティビティレポートは、今回で36号です。2014年度まではPart A(Highlights and Facility Report)とPart B(Users' Report)の二部構成となっていましたが、2015年度よりPart Aは「PF Highlights」として別冊子にまとめられることになりました[1]。Users' Report はこれまで通りPFACRとしてまとめられてデジタル配信されます。原稿は英語に加え日本語でも受け付けています。

### pf-logo

図１：これはPFのロゴマークです。

### 4 まとめ

皆様のレポートはPFの研究活動を計る重要な物差しであり，PF の支援ひいては皆様の研究環境の改善にも繋がる大切なものですので，この機会に是非ともご寄稿をよろしくお願いします。

### 謝辞

謝辞の項目はオプションとしますので必要がなければ消去下さい。このテンプレートは、過去にPFスタッフの方々がいろいろ作業して頂いた結果、出来たものです。ここに感謝致します[2]。

参考文献

[1] T. Tsukuba *et al*., PF Highlights 2015 **1**, 12 (2018).

[2] I. Oho and S. Sakura, *Phys. Rev. Lett*. **120**, 10101 (2017).

成果

1. 受賞、知的財産権、学会発表等、特筆すべきものがあればご記入下さい
2. 成果の項目はオプションとしますので必要がなければ消去下さい

\* ppap-apple@zzz.jp